

## かご網とトロール網によるズワイガニ漁獲物組成の比較 (要旨)

永澤 亨・廣瀬 太郎・南 卓志

(日本海区水産研究所)

日本海ブロックでは、試験研究機関が共同してかごを用いたズワイガニの漁期前一斉調査を行っている。ズワイガニを対象としたかごは、漁具能率の推定が行われていることもあって、漁獲対象資源の現存量調査手法としても有効であると考えられるが、比較的長い浸漬時間が必要なため多くの採集点をこなすのは困難である。一方、着底トロールは一日に数点の調査が可能であるが、信頼できる採集効率の推定値が得られていない他に、試験操業実施海域の選定等にも制約が大きい。そこで両者の結果を組み合わせる資源評価を行う場合の問題点を抽出する目的で、同一定点において両者による採集を行い、得られたデータの比較を行った。かごによって採集されたズワイガニは雌82%、雄59%が漁獲の対象となる個体であったが、トロールでは雌37%、雄8%のみが漁獲対象となる個体であった。このことは、かごの採集物が雌雄とも大型の個体に偏っており、かごが小型個体の採集には適さないことを表しているものと考えられた。また、漁獲対象資源となる大型個体についても、両者の採集結果に基づく推定密度を比較した結果では値のばらつきが大きかった。ズワイガニの資源評価は漁獲物の年齢組成に基づく解析が困難なため、直接推定法を用いる場面が多くなると考えられるが、採集結果の標準化手法についても検討を進めなければならない。